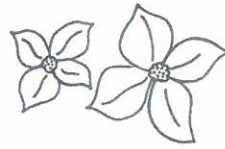




やまぼうし



社会福祉法人 市島福社会
認定こども園 いちじまこども園

〒669-4321
兵庫県丹波市市島町上垣138-1
(☎) 0795-85-2330
(fax) 0795-85-2335
<http://www.ichijima-kodomoen.com>

こども国HP



<教育・保育理念>
受容・信頼・貢献感

いきよう
ちからいっぱい
じぶんらしく
まっすぐに



絵本の選び方



絵本の読み聞かせは、幼児の情緒の安定とともに、想像力や語彙力が育つ重要なものです。その子の発達や興味関心に応じた絵やお話で、何度でもじっくりと楽しめる絵本を選びたいですね。

幼児は、およその年齢によって発達に特徴があります。絵本を選ぶ時はそれらを踏まえたいうえで、絵の感じやストーリー、本のサイズなどを含めて決めるとういと思っています。

【0～1歳頃…いい言葉をたくさん聞かせたい】

身近な大人の温かく優しい声、心のこもった声で言葉を聞かせてあげてください。配色のよいページのしっかりした絵のものがよさそうです。

【1～2歳頃…起承転結のあるお話】

簡単なストーリーが少しずつ理解できるようになってきます。短くて単純な展開のお話がよさそうです。

【2～3歳頃…繰り返しにつきあう】

繰り返しのあるお話が好きです。お気に入りのお話ができ、何度も楽しみたいくなります。記憶力も高まり、自分の知っている内容を確かめて安心してつづ、何度も楽しさを味わっています。

【3～5歳頃…興味の幅を広げて】

言葉の理解度が高まり、ストーリーを楽しむようになります。また未知のものへの興味も高まるので、いろんなジャンルの絵本へと広がります。図鑑などもおもしろそうです。

【6歳頃以降…想像力をはぐくむ】

文字を読めるようになってきたとしても、絵本は大人に読んでもらって「言葉」とともにイメージを描いて、その世界を楽しむようにしましょう。小さい子向けの簡単なお話、冒険もののような長いお話など、どんなものでも興味に応じて読んであげてください。

園でも子どもたちの発達や興味関心の状況を見て、絵本を選び、お昼寝前やおやつの後などに読み聞かせをしています。特に、寝る前には、愛や優しさがいっぱいでも温かい感じのするものにしていきます。そのまま安心して夢の中に入れるように。

また、保護者への絵本の紹介等も随時行っています。

(参考)

十文字学園女子大学教授・内田信子氏の研究
小澤昔ばなし研究所・小澤敏夫氏の昔ばなしエッセイ
絵本の専門店・こそたてナビゲーション

どの絵本にしようかな？

絵本だーいすき！

自分の借りたい絵本を選んでるよ！



毎週絵本の貸し出しをおこなっています。

児童憲章

- 七 すべての児童は、職業指導を受ける機会が与えられる。
- 八 すべての児童は、その労働において心身の発育が障害されず、教育を受ける機会が失われず、また児童としての生活がまたげられないように、十分に保護される。

* 児童憲章はすべての児童の幸福のため
一九五一年五月五日に制定されました。

つぶやき

うらしまたろうの絵本を読んでいて最後の玉手箱を開けてしまったシーンを見た子ども達。

子…「なんでこんなもの、おとひめさん渡しちゃったんやろうな…」

としみじみ…。

なんととも言えない終わりに
つい出た言葉でした。

